

12月23日（月）

真の友情

聖書朗読 詩篇 41編

人がその友のためにいのちを捨てるといふ、これよりも大きな愛はだれも持っていません。わたしがあなたがたに命じることをあなたがたが行なうなら、あなたがたはわたしの友です。
ヨハネ 15：13～14

真の友情をめぐって、私たちはどれほど不平を言ってきたことでしょうか。ダビデは、友が心配しているふりをしながら、心のうちでは悪をたくわえ、悪をたくらんでいと言いました。私たちの主イエス・キリストが人となられてこの世を歩まれたときにも、同じことが起りました。イエス様は弟子たちにこう言われました。『わたしのパンを食べている者が、わたしに向かってかかとを上げた。』（ヨハネ 13：18）。

友達だと思っている人が、自分に向かって悪を行なうことがあります。私たちが、イエス様との約束を破ったことはありませんか？ イエス様のパンをいただきながら、イエス様を拒んではいませんか？

でも、御恵みにより、神様は私たちを愛してくださり、私たちの敵が勝利をおさめることをお許しにはなりません。

御恵みについて私たちがいただいている最大の証しは、イエス様に刃向かう悪が勝利をおさめることを、神様が許されなかったことです。イエス様は友に裏切られ、しいたげられ、あざけられ、はずかしめられ、そして死に至る十字架にかけられました。しかし、イエス様の復活が彼らを恐れ、震えさせました。イエス様は罪に、そして死に勝利されたのです。

あなたのためにいのちを捨ててくれる友が、いったい何人いるのでしょうか。イエス様はご自分のいのちを捨ててくださいました。

聖歌 608

祈り ああ主よ。あなたに罪を犯してしまいましたが、あなたのしもべダビデが祈ったように、私も「私をあわれんでください」とお祈りします。イエス様を感謝します。イエス様の御名において。アーメン。

デイブ・イヴランド
モンタナ州 リビー

今日の力

2013年12月23日～12月29日

翻訳 村越克子

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

12月24日(火)

目をさまして、祈り続けなさい

聖書朗読 ルカ 22:47～53

目を覚ましていなさい。堅く信仰に立ちなさい。

I コリント16:13

ちゃんと目を覚まして人生を生きている人は、どれくらいいるでしょうか？ 私が言う「目を覚ます」とは、剣を抜き、ローマ兵を凝視して身構えているペテロのようということです。イエス様はペテロを厳しく叱責されました。この出来事の数時間前、ゲツセマネの園でイエス様はペテロに『誘惑に陥らないように、目をさまして、祈っていなさい。』(マタイ 26:41)と言われましたが、ペテロは事態を神様の御手から自分の手へと持ち込んでしまいました。あなたの知っている人の中にも、こういう人がよくいますよね。

「目を覚ましている」ことは、神様が命じられる良い行ないの中で最も難しいことかもしれません。人生の過ちの多くは、目を覚まして祈り続けずに、衝動的に反応してしまうことによって起こるのだと思います。うっかりした瞬間、すべきではなかった結婚、車のタイヤのすぐ後ろ、思わず言ってしまった不用意でがさつな言葉など、その例はたくさんあり、その結果、悲劇に見舞われるのです。私たちもペテロがそうだったように、神様が私たちを通して働かれることを認めず、神様のなさり方に割り込んで、自分で何とかしようと頑張ってしまう。そして、大切な瞬間を無駄にしてしまうのです。

でも、私たちには福音があります。それは、目を覚まし続けさえすれば、神様は真実のお方であり、悲劇を勝利に変えることがおできになるということです。さあ、今日から、目を覚まして、祈り続けましょう。

神様は、私たちの魂の浅瀬ではなく
常に深いところで答えてくださいます。

———エミー・カーマイケル

聖歌 691

祈り お父様。今日、私の人生をあなたにおささげいたします。私の選択のときに導きを、待ち続けるときにあなたの平安を与えてください。

イエス様の御名により。アーメン。

シェリー・リームス
テキサス州 ラボック

12月25日(水)

羊飼 い

聖書朗読 詩篇 23編

彼は、自分の羊をみな引き出すと、その先頭に立って行きます。すると羊は、彼の声を知っているの、彼について行きます。
ヨハネ 10:4

ある夜の事です。居間でくつろいでいると、玄関に物音がしました。夫が玄関の電気をつけてみると、なんとそこには7匹の子羊がいました。羊たちは、まるで「私たちを助けてください」と言っているかのように、夫をじっと見つめていました。

夫は、裏庭に通じる門を開け、羊たちを裏庭に入れていました。そして、持ち主が見つかるまで、可愛い毛玉のような子羊たちを、危険が及ばないように囲っておきました。自分で気がつかないうちに、夫はしばらくの間、羊飼いになったのです。そして、羊たちは、夫のあとをどこでもつきて行き、夫への信頼をあらわしました。

今日の聖書の箇所、ダビデ王は羊飼いのすばらしい特徴について書いています。羊飼いは自分の羊を愛し、羊の群れへの愛情のこもった慈しみによって、緑の牧場やいこいの水など、羊たちが求めるものすべてを与えます。ダビデは自分を羊にたとえ、羊が羊飼いから与えられるように、自分も愛する神様から必要なものをいただいていると語っています。ダビデといっしょに、私たちもまた、私たちの良い牧者から確かなものをいただいているのです。

私は、私の羊飼いに心から感謝し、緑の牧場といこいの水を愛します。そして、それはこの混沌とした世の中にあって、私に平安を与えてくれます。

讃美歌 294

祈り 親愛なる神様。良い牧者であられるイエス様を遣わして下さり、ありがとうございます。自分の言動のすべてにおいて、イエス様のお導きに従うことができますように。

イエス様の御名において。アーメン。

ジョーン・クレイトン
ニューメキシコ州 ポーティルズ

12月26日(木)

信 仰 の 義

聖書朗読 ガラテヤ 3:1~9

アブラハムは神を信じ、それが彼の義とみなされました。それと同じことです。

ガラテヤ 3:6

自力で救われる必要はないと思うと慰められます。私たちは皆、罪を犯したので、自力で救いに至ることはできません。天国で自分の場所を得ようと自力で頑張ろうとしている人や、自分の救いを疑っている人がいます。また、何年間もクリスチャン生活を送りながらも、それでもまだ「もし、私が天国に行けたなら」と言っている人がいます。こういう人達の信仰は一体どこにあるのでしょうか。悲しいことです。

救いを信じるなら、すばらしい栄光に満ちた人生を送ることができます。練習がテニス選手に自信を与えるのと同じように、みこころを学ぶことは私たちに救いの確信を与えてくれます。

「もし」ではなく「いつ」と考えるべきであり、それがクリスチャンとしての確信です。自分の罪のためにイエス・キリストが死んでくださり、死からよみがえられたことを信じるなら、自分の信仰が義とみなされたと信じるべきです。

使徒たちが主に叫んだように、私たちもまた「私の信仰を増してください」と神様に叫びましょう。正しいことを行なうことができますように、救いを確信することができますように。そしてエチオピアの女王に仕えていた宦官のように喜びながら歩みましょ

私たちは何を期待すべきですか。どれでも。

何に望みを置くべきですか。すべてに。

何を恐れるべきですか。何もありません。

讃美歌 270

祈 り お父様。あなたが私たちの神様であること、また、あなたを一心に求める者にあなたが必ず応えてくださることに、もっと心を留めることができますように。

私たちの贖い主、イエス様の御名により。アーメン。

ジーン・マッコイ

テネシー州 フェイエットビル

12月27日(金)

わ が 父 ， 神 よ

聖書朗読 詩篇 102編

主よ。私の祈りを聞いてください。私の叫びが、あなたに届きますように。私が苦しんでいるときに、御顔を私に隠さないでください。 詩篇 102:1~2

子どものころ怖かったり、転んだり、怪我したりしたとき、まず最初にするのは「お母さん、お父さん！」と叫ぶことでしたよね。自分よりも大きくて強くて、助け慰めてくれるような人が必要だったのでしょ

うね。大人になっても、それほど変わるものではありません。私たちは日々、傷ついたり、人から拒絶されたり、失敗したり、不安を感じたりし、そういうときには、自分を愛してくれる親を必要とするものです。詩篇の作者は、自分が神様の助けを必要としていることを認め、『私が苦しんでいるときに、御顔を私に隠さないでください。』と叫んでいます。神様のすばらしいご性質のひとつは、私たちのために常にそこにいてくださることです。私たちが置かれた状況がどのようなものであろうとも、またどんなに悲惨なことが降りかかろうとも、神様は常にいてくださいます。

『わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。』

ヘブル 13:5

『私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。』

ピリピ 4:13

神様は私たちのお父様であり、私たちは神様の子供です。神様は私たちを愛してくださり、必要なときには、いつも共にいてくださいます。助けを求めて、常に神様をお頼りすることができますように。

讃美歌 487

祈 り 天にいらっしゃいます私たちのお父様。必要なときに助けてください。私たちを捨てず、支えてください。私たちはあなたの子供です。

キリストの御名において。アーメン。

ガース・W・ブラック

カリフォルニア州 ベーカーズフィールド

12月28日（土）

感謝

聖書朗読 ルカ 22：6～7

しかし、私たちの救い主なる神のいつくしみと人への愛とが現れたとき、神は、私たちが行なった義のわざによってではなく、ご自分のあわれみゆえに、聖霊による、新生と更新との洗いをもって私たちを救ってくださいました。 テトス 3：4～5

「感謝」は、みんなが受け取りたいと思う贈り物です。「ありがとう、なんて期待していないわよ」と言いながらも、感謝されるのは気持ちの良いことです。特に、それが友達や愛する人からの「ありがとう」だったら、嬉しいものですね。「ありがとう」がないとイライラしたり、そのことを受け入れ難いと感じることでしょう。自分のすべてをあげたと思っているのに、「もっとくることができたんじゃない？」という相手の言葉や態度は、気持ちをくじき、傷つけます。

神様は私たちを救い、私たちが神様に近づくことができるように、キリストにおいてご自身を与えられました。キリストは残酷で悲痛な死を耐えられました。さらに痛ましいことに、キリストは私たちの罪をも耐えられました。一方、私たちは疑いや経済的損失、死などの苦痛に直面すると、「神様、もっと与えてください」と言います。神様は最高のものを与えてくださいました。これ以上、偉大なるものはありません。私たちは自分の現状を最小限に評価し、十字架を最大限に評価する必要があります。

ユダヤの議会はイエス様に質問をしましたが、本心は答えなど聞くつもりはなく、イエス様が行なった奇跡や教え、そしていのちに感謝しませんでした。これだけでは不十分だったのでしょ。私たちもイエス様に尋ねることがあるかもしれませんが、イエス様はすでに最高の答えをくださっているのです。

聖歌 292

祈り お父様。イエス様を感謝いたします。イエス様とイエス様がくださった犠牲に思いを集中させることができますように助けてください。永遠のいのちという贈り物と、イエス様の犠牲によって与えられた神様との結び付きを感謝するための正しい判断力を持つことができますように。
イエス様の御名により。アーメン。

アニタ・プライス
テキサス州 ラボック

12月29日（日）

みんなが恐れることでも私は恐れませんが

聖書朗読 イザヤ書 8：5～15

神はわれらの避け所、また力。苦しむとき、そこにある助け。 詩篇 46：1

普通の人は恐怖を感じることも、主にある人なら冷静に立ち向かうことができます。なぜなら、神様は恐怖や驚異を支配されるお方であり、物事を長い目で見てうまく行くようになさるからです。私たちがすべきことは、このことを信じることです。

「信仰」と題した絵には、岩山の厳しさに耐えながら登る登山者が描かれています。道は険しく、一見、登頂はとても不可能のように思われます。彼の頭上に見えるのは、人を寄せつけない岩壁のみ。頂上が見えず、登頂は失敗に終わるかのようです。でも、登山者には見えないものが、私たちには見えます。ギザギザに尖った岩壁の向こう、頂上のさらにその上に、神様を信じる者を待っている喜びに満ちた楽園があるのが、私たちには見えるのです。この楽園が見えず、そしてその存在を信じないなら、登山者はもがき苦しむことになるでしょう。

楽園を信じている人は、主を知らない人たちなら打ち負かされてしまうような危機をも恐れませんが。私たちもまた、同じように自信に満ちて、今日という日に立ち向かうことができるのです。

主よ、すべてをあなたに委ねる信仰を与えてください。

未来はあなたからの賜物。

未来と私とを隔てるベールを

私が取ることはありません。

—— ジョン・アクスンハム

聖歌 496

祈り 主よ。あなたの御力は私たちの理解と予想を遥かに超えるものであるということ、私たちが覚えることができますように助けてください。
キリストを通して。アーメン。

トニー・アッシュ
テキサス州 アビリン